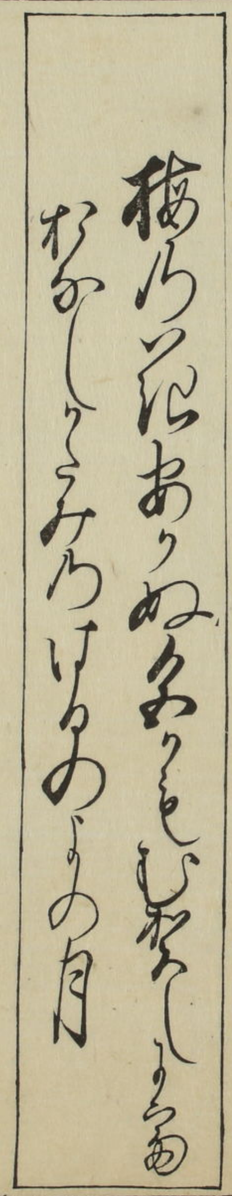
心正筆法論

是も廿題の躰

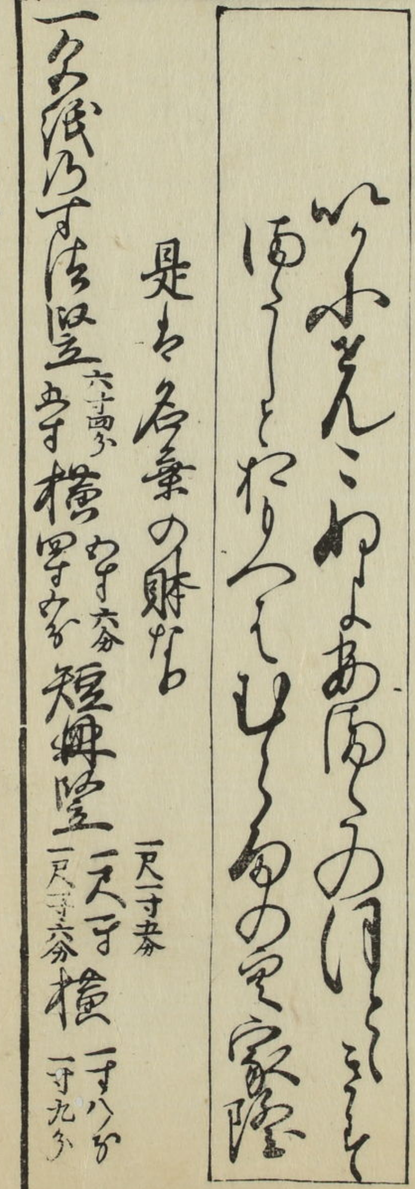


三字題

一字題三字題両てわかし一行な

国際日本文化研究センター
図書室
登録未定
58-4161

字題の躰



字題も右二字左二字あり字題の時も
右二字左二字なり　字かしらの二字下同じ

一尺寸歩
一尺五分
一尺寸歩
一尺寸歩
一尺寸歩

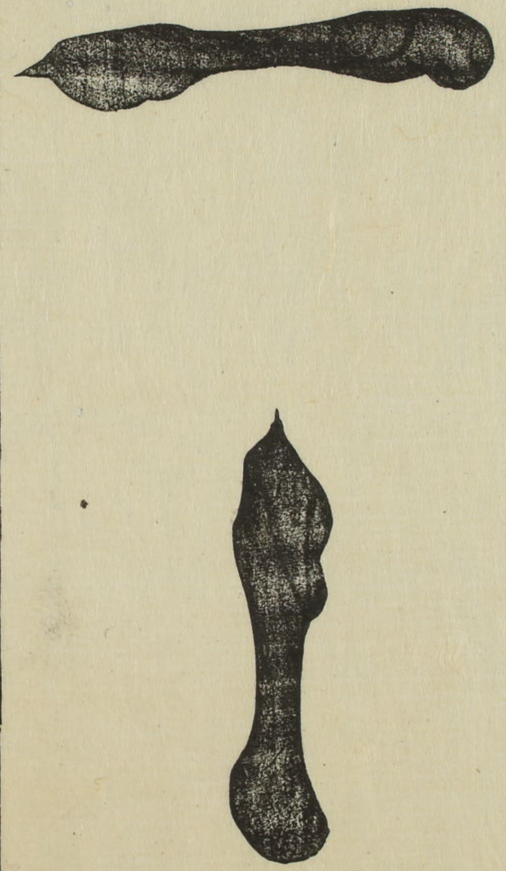
扇團屏風障子かき様の事

一扇ものをかくにも絵の師匠ある人は随分その心を
かくて絵の躰をかくおぼえぬやうなり
なりてもその扇をもつ人躰ちがひて或は詩或は哥
扇二面ひらきてかき出すべし
一扇折目よくかくべし
字配も同前なり
必扇うちもくて

一うちかけ事おぼえぬ辞退すべし
かい月乃湍よからぬ様なり唐團もよし
牡字ふさうの得あり中乃大骨おかり
六字學或は八字二字學一字
かきて或は両ふ乱もかきて
屏風障子乃事は師傳ある筆つかふべし
くく心得なるべし

寺社額出様筆遣秘奥乃事

一寺院堂塔乃額をおかく字形鬼形



かくて鬼形を仏法護持の外相金剛力士なる骨髄を大慈悲の内證なる大悲胎蔵乃筆使なり

横乃点を中細より堅の長い本来草等なり

点を垂露流水乃点をもちゆるなり

心に決難をのそかんこめなり宝珠乃点一点をもつて国家平安乃点なり

鳥居うち沖額やその神躰うわ書
叩きなお六ノ尾大躰を一はなやそのゆへ
毒迹本地の事宗源神名のさまざまを書
毒迹毛如地ノ項を安心やすく或ハ蛇形
鬼形龍形鳥形形ありとて又ハ幡
乃額や鳩乃梁なお祇園の額やかくを忘
れみか使者なとかく事なお他や准し
て云ひて先額や法界内證乃法や外
相ノ顕て万民を化度す法愛慕
羅なのあしくかけて国家乃さまたけ

なる乃理あおよく師説をとくして

縁起願文おかきやう乃事

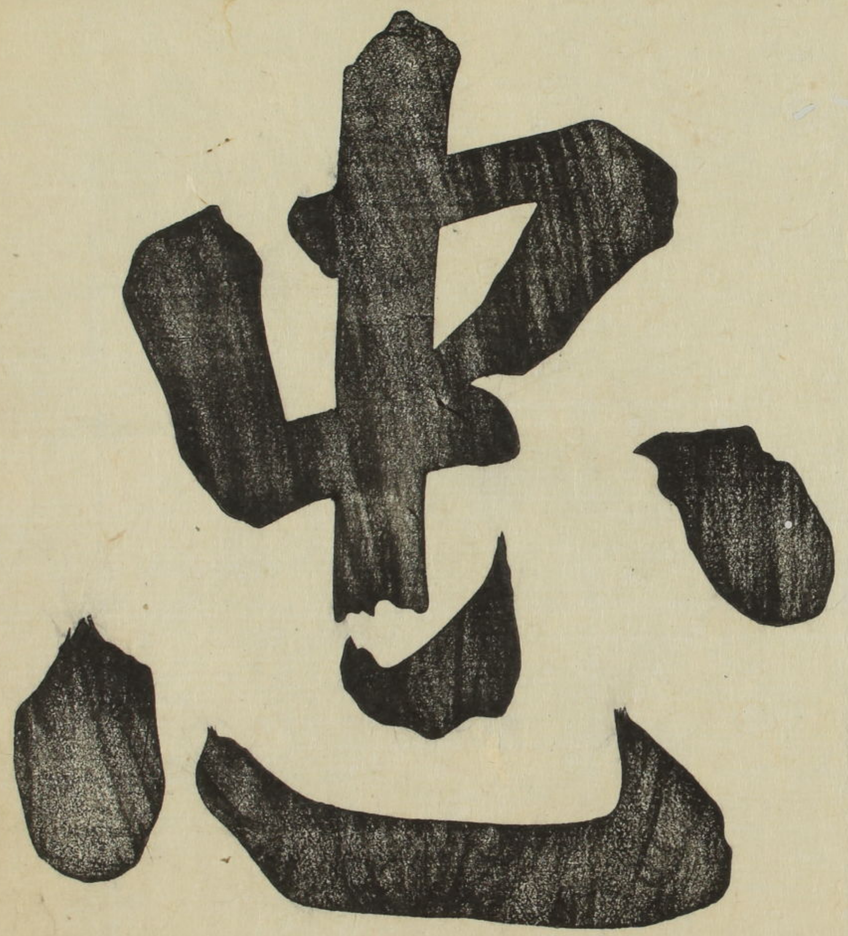
一縁起や必行草やうのかなを用ひてかなも
点昼四ノとよみやうさま様よかくして国郡
なとあるとき引ときかなりて筆ゆれ
や遠波毒露乃点おをりゆて
一願やや真りも行みもかくなお毎点墓
してすみ久厚きもとして
その外鐘或ハ灯籠乃銘すや箱

乃神ならん事ヲ傳すて明師ヲ
まつ

大文字筆法之事

一大文字ハ別而精灵ニ通ずるかゝりにして
或ハ禹王乃鼎熊蔡邕先生ヲ飛白或
龍仈虎仈返鶴乃筆法なかゝりにして
大師ニ曰學轉筆於鼎態擬超翰ヲ字草
聖ニ
轉筆ハ者蔡邕九勢訣ニ曰轉筆宜ク左右ニ

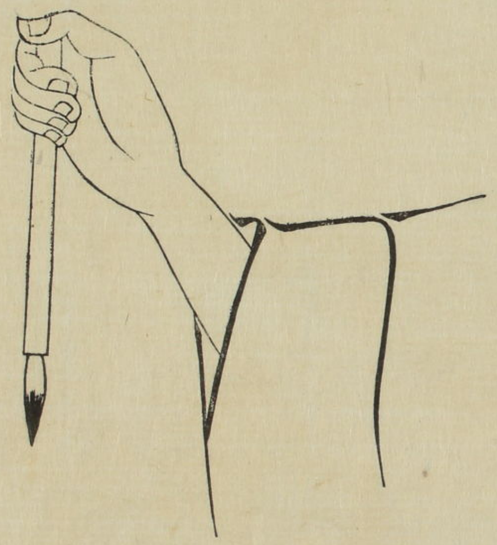
回顧無レ使ニ節目孤露ナリ
鼎能ハ者會要一ニ曰夏禹命ニ九牧ニ貢金ヲ
鑄ニ九鼎ヲ象ニ神姦ヲ使メ民ヲシテ知ニ備ヲ故ニ作リ象ヲ鐘ノ
鼎ノ形ヲ勒メ銘ス于天下ノ名山大川ヲ曰フ鐘鼎ノ
之書ト
飛白ハ者會要二蔡邕字伯喈陳留圉ノ
人也官至ル左中郎將ニ性篤孝善ク篆隸
八分ニ古邕待レ詔時見テ門下ノ吏ノ他本作役字
雪帚成ヲ字ヲ作ル飛白ノ書ヲ蔡邕ガ者即飛白



之祖也 鳥一考有二鳥一歟 飛一白一巻一飛白之一書、点一畫 形二容レ鳥一歟ノ之一象ノ字白、八一分之一勢也 又王一僧虔曰飛白、巧一法ヒ也 又王一僧虔曰飛白飛少メ白ノ多甚躰猶ホ拘ル二八一分一自リ蕭子雲又作ル二小一象之飛白一也 愚一按飛一白ノ体之遺ノ可キ二ロ一受ス也 者古一人 翰一毛ノ筆

龍爪虎爪返鶴乃点ヲ前乃巻ヲ

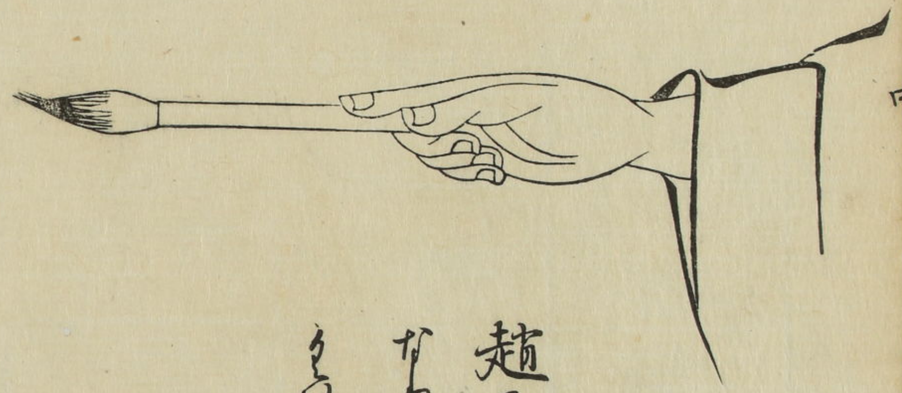
ハく記すなり



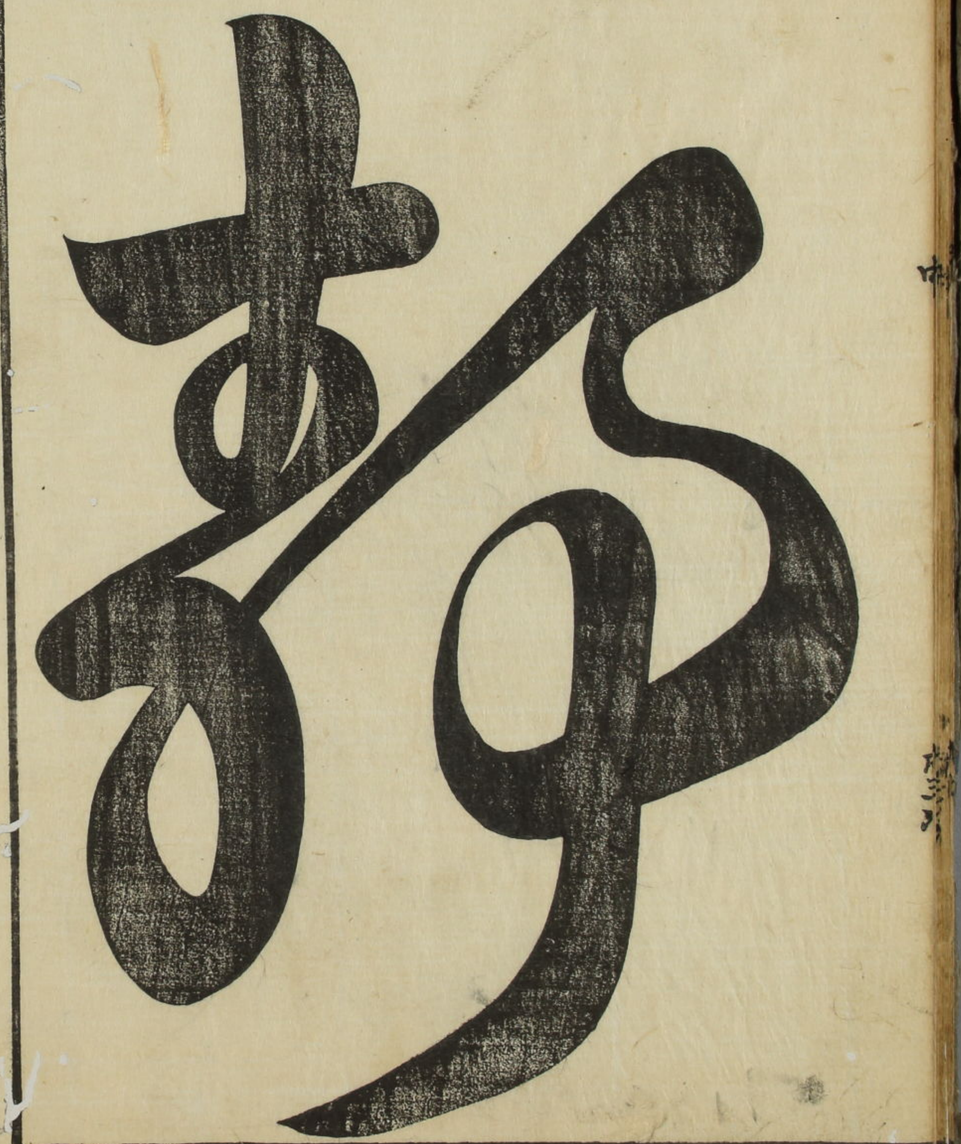
晋乃王羲之大文字の筆法なり

常ものゝ筆法と
ハ異なりて

筆



趙子昂乃竪ㇾ筆拳
大文字ㇾ志而
ㇾ傳あり



一いろは歌の事

いろは歌は弘法大師の製作なり不動明王
の巌上よりうち給へばなをみてかせと唱へ
り雨さ水と乃蛇形となりて入侍りぬ
まそ一字くのかさやうなる口傳をへし
悉曇のそうり者なりみよ　東寺よの宇七字
山門よ四十八字よゆく所なり　北着を初
乃まきを　讃命僧正なり
いろはにほへとちりぬるをわのようたれそつね

なうんうのわく

のうの半分を弘法大師な

やはけをひそうきゆめみしもも

せを

宗乃字を傳教大師かうれ給ふてこの

長方乃肝心を世ふ八字のうう

八宗乃奥蔵みなこの四十八字のうう

権乃所こうをもてとくはゆへなり

いろは乃理を志向し侍所なり

魚とちりぬるをとよみ

乃境界な　般若乃四句の文をふまり

わの世ねそはねならんとも世間なり事の

常住なるとみゆるをもつてなり（イ報也）

とも云ふそよ依正乃二法てゝはねあき

さとりなし　うねの わ山をあてゝ

有爲煩悩乃世間の換山を越ゆて実

相無漏乃地りをふ是無明を

断しる八識田中乃一刀な　あさま夢

みしらひもせとと生死の夢さめ無明
煩悩の酒のさめてなとといふは是みな観想の前なる諸法を
差別の実躰なく幻夢のごとくかくいはみな夢をもうゆるなり
り別と夢をあらんや禅もまた不起不念
の心地もてこの四十余字をゆるねもち
備得教大師京の一字をもりてこの長句
の一理ありと真如の帝都よりいふ所へき心得なかのく
とふことをの理のことなるをの心
得ちがひをかつまた不貴なるく師伝
をかつて世間閑叔の筆ものをおもて
ゐるはのかきやりをかけりみな擬似なり
恐ふへき事なりもちゆるなる亜備のろ
はの奥なふのごく浅香山のうく
をかつて事ひきせちのをもて

いろはにほ

へとちりぬ

るをわかよ

たれこめて
らつねな
むうのに
くやまけ

ふいてあ
こさゆめみ
きまひもせ
しゐ

す

一二三四五六

七八九十百千

万億

なゝもゝ

こゝのはち

いまはむかしものがたりの
ものがたりのこの
まきの

この八字なり此字かうを上よりうを羅とを
加なり
鳶羽玉問若抔よりかるかゆけやもを
ふてるらにかやみろうの字なゝ必上乃
字よゆくてしたの字よゆくてを加をねし
きてとりまるを上よ字かなもをれよ末限
まる上乃字お自然を出續せてへなう
悟仲集よをふくかうらにやきろはれ字を

出まお於師得まを関おさみゆうともりり
ゆきてわさ両おを石面の異なり出稼のま
きぬ字石面絵の異なり出稼のま
一
きぬ地よくほもを外乃ののよ云ののをうけて
くへきとなまきぬ
まさてかさし
一
石面よりおかをへ石の行てを
云ふさ加ののまてぬるひ墨をいかりも
うをすふてくうし

一 [illegible]の奥乃ようなものを再乃あか武
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

手跡り十ケ條評論乃事

一 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一筆法筆勢乃心を主とする事なれば心妙にして

手迹すみやかに面々
乃野老のごとく本陽よねかのそし
そのごとく迹
すこしみな婦子ふ文字かな乃
蛟龍乃千まの功なをしてこふ盆天ん
とおもふこと恐ふまき事なき事ふこと
ふこと乗ふもちぬるいし
おおふ一井田立まのうち当園は親王乃真
翰をなしものく筆之鍾繇ふ石摺ふ

ふを門弟乃迹
まて文字ゆふみすみやかにをりて
ふみて自然ふ功出
手迹熟せふのをあ面の風流ふふこと
ふこれとおもひ面ふその師乃ふふ手
本をとふすふみなてふこの人乃手迹
誉古乃躰をおなふ筆論の肯趣ふも
ふふて字形ふ
なふ面ふ書ふふ悪功出ふのふく

工梅のりふな唯一流を守り譽
なし侍ふなひいろ〳〵遊もあれどみやびう
ろこふ風雅をわきまえて雨なれ侍ふまで
ばらの工夫一百をあつめ急務のいとまの間
なむまでおりふしをかしうもふさはしき
心ばへのあまたもとられ能筆といふ事人を
あまたなうひきて治練一侍ふ
おほうをかきてふなの師となりし筆
乃すぢとなりて万象をみな筆硯とせ

侍ふまで自賛うさ
あるそかの師よりつたへ
まで遂乃風情を
りぬく思慮すくまで
かまり人高もようきやう
ひなうぬて手うち
筆風さとけいてまで三津乃うち
すきてそのよふ
一世ふ筆乃知一侍ふ乃遂打ぬうさ

わるきなるよくかゝんとおもふ心ありてこそ筆法の筆つゝ
りなつむゆゑなれ醫學をおさめんとおもふ心ありてこそ醫學
をもおさめなれ人の古人名醫乃某方ふるまひをよ
らもてやむものゝまなぶ學力なきこゝの某もあやうきこと
ともおもはでまなぶもまなばるゝもよしやふるまひをよ
ろもとも文すらもなを 張謂蔡邕歐陽詢の筆法よりもあるこ
けをもてみつゝ 唐宗皇帝乃真蹟

怠惰のひとゝきことなの杉を逐乃ようをも人今日超
越してすれおもはでおなじ風情乃筆跡なを肉すなをかしとおもひて
おもはでおもふ風情をあの肉もあれをおもはでおもふ風情も
なの遠言りもなくて風情もなのすをとをもひて
四五歳乃ちあをはゝ手のあそ工拙をおもはで

一手迹ともて面の随意と面をてこゝき
筆ぬれて常ともなき筆法乃みかきて
人乃をしりみあやまりをしへうなき事なり
ともをおもて名を得ん事を一字二字
乃あや面白くなひやうを事なりとも
かな乃大節ありとも小疵あるをいとも不孝
とをもをいふ一面行はるゝ面白
時くおもんみるしかをいふみてもこの
上もなくふ面白く自迹も生得乃堪能なく

なひわう面なる筆ゆゑんひとともとあるとよ
ふをもて

一むかし能書の人文字乃すくなきをいふ
やらむあり乃まゝかなりつゝけるを
まお当園額をまおと乃ことを心を文字の餘
と用捨具足すなを本とすなを文字
乃なくて叶ぬをみ叶をみ乃取捨面白
をよく打わをやまて古人をまて筆法をやまも
くとすみをなひうなる面をいかゝ心をおもて

心みて筆はこりをさすりあらひぬぐひ
清きものとなしてしまひおきて
字乃字をすてて傳かを儒者乃うちの狂者
病て心をも字乃かうちをも相なくなして
ありを真実乃儒者病てしまひさしも
ふくくわを清くしまひおくことなり

一真をうけ迷うたる人をかけてやい
らうとおもふ初心乃ものゝ為の真行草
かゝよいてをの筆はこりをさすりあらひぬぐひ

真をうけ迷うたる人をかけてやい
らうとおもふ初心乃ものゝ為の真行草
筆はこりをさすりあらひぬぐひ清き
自迷みうたる筆盈乃あはきぬぐひ行
乃筆をなき自迷すみ方乃かを
なくせをもとし初心乃ものゝ為の事
みをあをを清きなくしまひおきて
手迷り天然と病をして手迷と結ぶ筆
はこり前段乃通別乃思意すて

たくまりのなり

一 筆乃心須そく〳〵かくものも筆乃真鋒ゟ
とゝ太そふゆひてなゝめにもたへきなり筆の
ちゝかきおそくものも墨をこゝろゝとりて
平生乃なをなゝめにもたへきものかくの
ゝゝきの心百ケ條乃奥義といふもの
教戒乃故実ゝもなゝ手源を亟座りく
す事ゝ〳〵久〳〵敷ゝ〳〵関板せ〳〵めて
世の童蒙ゝもとへきこと所なり

一 初心乃人ものをかゝんとへきゟ秘蔵の事あり
初心の時ゟ深きゟ深きゟ深き

思ふ事ありて天性くまなく
むなよあくまで人の為ともなし
十万億仏ともつきあくまで
とつて度ようさあくまでして先
生の教を固く守つきみちなし
一、生死無盡の林を悉く流あみちを
ひろくわさ固くまもりのをみゆうこのむ
流ん生死をたんわろけをせらーと
思ふ心つくろふ思ひかくまき

なてもうとおもすてそりあ妙の
ゐ是を第一乃善会とおりて多く流
仟乃功をゆみその骨を浮うんを流ん
なふ流りてらし梁をいかな梁り高も
舩をと志而て業ほの心をわを固て堅
ふを人乃ふまてこかさり
りてけやしぬをその生死をよとなし
侍ふ固さ舩業なをいんあるまか
めて世そうねをもふそーりなそ

なるをいゆるてのさすふ童子の教訓と
なしみるへきなり

一あさかる多備後男女ふ村ろそます人
かるを人とむふ村ろ多てかふいぬみち
ふ村ろあるめりのるをよくゆしみく
て儒者一幼のるなれるみろ
文字乃ふ村ろを明めて先生の金言
よくなしわさ

張思叔座右銘曰字畫必楷正
楷者不ニ草ニ
正者不ニ偏邪ニ
明道先生作ス字ヲ時甚敬ム嘗テ謂テ人ニ曰非
欲ニ字好ニ(スルニ)(ヨクヲ)即此ハ是レ學ヘ